

鴨川の魅力再発見

～おらほにきなよ～

【はじめに】きょうは「鴨川を学ぶ」をテーマに、南房総・観光拠点の一角を担う鴨川市を多面的に探ります。みなさんが持つ鴨川のイメージは、鴨川シーワールドや前原、太海の海岸といった「海辺のまち」が多数ではないでしょうか。鴨川の海岸美は素晴らしい。太平洋の波頭は雄大で見応えがあります。だが、田園が広がり、山々が連なる中山間地の風景も魅力的です。東京から一番近い棚田の「大山千枚田」、日本酪農発祥の地といわれる「千葉県酪農のさと」などがあります。鴨川は実に奥が深いエリアです。また、鴨川は多くの偉人を輩出しています。日蓮宗を開宗した日蓮聖人、「波の伊八」の異名を持つ彫刻師の武志伊八郎信由が代表です。わたしは、かつて千葉日報の新聞記者として「南房総地域」を担当したことがあります。わたしが取材活動を通じて見た、感じた鴨川を紹介します。ことしは未曾有の台風や大雨で、市原市はもとより千葉県全体が大きな被害を受けました。特に、南房総地域は被害甚大でした。サブタイトルは、一日も早い復興を願い、千葉方言で言う「おらほにきなよ」（私たちのところを訪れてね）としました。

きょうお話しする内容

- (一) 鴨川について (歴史・風土)
- (二) 波の伊八と鴨川
- (三) 日蓮聖人のふるさと
- (四) 長狭米と大嘗祭
- (五) 大山千枚田とその周辺・旧水田家住宅 (登録有形文化財)

鴨川の歴史・風土

古代は長狭郡(ごおり)と呼ばれていました。奈良時代の一時期、上総国に属したことがありました。「鴨川」の名称由来は、明治22年(1889)町村合併の新町名称が「鴨川町」になったことから。理由として、町内を加茂川が貫流していること。平安時代の漢和辞書(今風で百科事典)の「和名類聚抄」(和妙抄)に長狭郡加茂郷の郷名が見え、当地(現鴨川市)に比定されることからという。また、加茂川が京都・鴨川に似ており、二文字の佳字「鴨川」にした(鴨川沿革史)。昭和46年(1971)3月に鴨川町、長狭町、江見町の3町が合併し

「鴨川市」が誕生しました。県内で21番目の施行。ちなみに市原市は昭和38年(1963)5月に施行され、県内17番目でした。平成17年(2005)2月に天津小湊町が平成の大合併で加わり新市がスタート。南房総観光圏の観光都市で、海岸部は南房総国立公園に指定されています。市域は中央部の鴨川地区、東部の天津小湊地区、西部の長狭地区、南部の江見地区に分かれます。人口は約3万3千人(平成30年6月現在)。

波の伊八と鴨川

みなさんは「波の伊八」をご存知ですか。すでに知っていたという人は、かなりの千葉通です。伊八は安房国長狭郡(現鴨川市)生まれで、江戸後期の彫刻師。地元鴨川や千葉、神奈川、東京などの寺社の欄間や向拝に多くの作品を残しています。初代の武志伊八郎信由(たけし・いはちろう・のぶよし)は、「波」を彫ることを得意として「波の伊八」と称されました。「関東へ行ったら波を彫るな」と、各地の彫刻師に知られる存在でした。伊八と同時代を生きた浮世絵師・葛飾北斎にも大きな影響を与えました。北斎の富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」は、伊八の「波と宝珠」(いすみ市・行元寺蔵)をモチーフに描いたとされています。伊八郎信由を初代とする「彫工武志家」は五代約二百年にわたり、各地に作品を残しています。初代の主な作品は、前出の行元寺のほか、飯縄寺(いすみ市)、祥念寺(長南町)、大山寺不動堂(鴨川市)、金乗院(同)、鏡忍寺(同)、薬王院(同)、吉保神社(同)などに残っています。二代目は清澄寺(鴨川市)、藻原寺(茂原市)など。三代目は上総・国分寺(市原市)など。四代目は、柴又帝釈天(東京都)に作品を残すことに半生を注いだといわれています。五代目は、父(四代目)とともに帝釈天での制作に従事するとともに、鏡忍寺(鴨川市)にも残しました。そのほかに、鴨川市郷土歴史資料館でも「波の伊八」コーナーが設けられ、地元が生んだ偉人の業績を今に伝えています。

日蓮聖人のふるさと

鴨川が生んだ代表的な偉人に日蓮聖人がいます。鎌倉時代に「日蓮宗」を開宗したことで知られています。日蓮聖人は貞応元年(1222年)に、安房国長狭郡東条郷小湊(現鴨川市)の漁夫の家に生まれました。12歳で当時天台宗だった清澄山(寺)に入山。修行を積み、16歳で得度出家しました。その後、鎌倉へ遊学(浄土宗、禅宗を就学)。21歳で京都・比叡山にのぼり、32歳の時に故郷の安房・清澄山に戻り、「法華経」の信仰を説き始めました。建長5年(1253)4月28日、日蓮聖人は清澄山・旭が森で、昇る朝日に向かって「南無妙法蓮華経(なむみょうほうれんぎょう)」と7文字の御題目を初唱(立教開宗)しました。33歳ごろに、「日蓮」を名乗ったという。日蓮聖人の父母が、初の弟子で父親の法名・妙日、母親の法名・妙蓮からつけたと伝えられています。鎌倉に再び戻り、39歳の時に「立正安国論」を著す。その年に、鎌倉・松葉谷の草庵で念仏信者に襲われました(①松葉谷法難)。翌年に幕府に捕えられ、伊豆に流罪になりました(②伊豆法難)。42歳の時、病気の母親を見舞うために帰郷したが、安房・東条小松原で在地の実力者(念仏者)に突然襲われました。日蓮は、九死に一生を得たが同行の弟子・鏡忍坊は討ち死。急を聞き駆けつけた熱心な法華経信者となっていた天津の領主・工藤吉隆も命を落としました(③小松原法

難)。日蓮50歳(文永8年9月・1971)の時。幕府に捕えられ死罪を宣告されました。「籠口」で執行予定だったが、寸前に中止となり命が救われました。その後に佐渡に流罪(④籠口法難)。中止の理由は、突然に江の島の方から「光るもの」が近づき、役人が怖気づいたためという。この4つの法難(日蓮が迫害を受け、危機に遭う)を、日蓮宗では「四大法難」と呼んでいます。61歳の時、常陸へ湯治のために立ち寄った武蔵国・池上の信者宅で入滅しました。

千葉は生まれ故郷。とりわけ鴨川市には、日蓮聖人ゆかり寺院が多く存在します。生誕地小湊地区に建つ「誕生寺」。日蓮聖人が12歳で入山。出家修行し立教開宗した清澄寺。同寺は江戸時代前までは天台宗。江戸時代は真言宗の寺院で、日蓮宗に開宗されたのは戦後の昭和24年(1949)でした。聖人が襲われ、弟子鏡忍坊と有力信者が殉教した地に建てられた「鏡忍寺」。鴨川市ではありませんが、茂原市にある藻原寺は、日蓮聖人が、立教開宗後に初めて信者(信徒)に説法した地に建っています。総本山の身延山久遠寺に対して「東の身延」と呼ばれる聖地です。茂原の地名由来は「藻の原」からきています。入滅した東京・大田区池上の地には「池上本門寺」で知られる長栄山本門寺が建っています。

皇統米と大嘗祭

ことし5月に平成から令和の時代になりました。先ごろ、今上天皇の「親禰の儀」が執り行われ、ご即位に関する国や皇室の一連の行事(儀式)が終了しました。一連の儀式の中で、皇位継承の重要祭祀・大嘗祭(だいじょうさい)も行われました。天皇の代替わりに行われる一世一代の祭祀。7世紀後半の飛鳥時代の天武天皇ころから始まったとされています。室町時代の応仁の乱(1467)後に約220年間中断され、江戸時代の桜町天皇(中期の8代将軍・吉宗のころ)からは代替わりに行われています。大嘗祭の中心儀式の大嘗宮の儀は、明治天皇以降、大規模になったという。大嘗宮の儀式に伴い、神前(悠紀祭殿、主基祭殿)に奉げる新穀の産地を占う「斎田点定の儀」、「抜穂式の儀」なども行われました。産地を決めるのに亀の甲羅を焼いて、ひび割れの状態で占う「亀卜(きぼく)」という方法がとられました。29年ぶりに行われた儀式では悠紀斎田に栃木県、主基斎田に京都府が点定されました。大嘗宮の儀では、陛下が収穫された新穀を神々に供え、自らも食し五穀豊穡、国の安寧を祈られました。ちなみに明治天皇の代は悠紀田に山梨県、主基田に千葉県。大正天皇の代は悠紀田に愛知県、主基田に香川県。昭和天皇の代は悠紀田に秋田県、主基田に大分県が選ばれ、供出しています。

明治天皇の代替わりの際は、千葉県が点定され、鴨川市の長狭地区の水田が主基斎田に決まりました。主基斎田に選ばれて対応が大変だったようです。「鴨川風土記」(鴨川市立図書館)によると、市内北小町の約6反歩の斎田に早速しめ縄が張られ、一部が埋め立てられて仮の祭(神)殿が建てられたという。当時の世相は、江戸時代から明治へと代替わりし、若干の混乱がありました。江戸時代は、主に天領で行われていたといえます。斎田は鴨川にあった花房藩(大政奉還で横須賀藩から配置替え)の役人が24時間体制で見張り番、警護しました。見物は一般人(僧尼は除く)も許されたが、汚れた服装はダメで清潔さが求められ

たということです。抜穂式の儀のときは、国から派遣された「抜穂使」が祭祀を取り仕切り、収穫された新穀を持ち帰ったという。鴨川から帰京の際に、内浦（鴨川）―大多喜―澗井戸―船橋に宿泊し、4泊5日の行程がとられました。

また、明治の大嘗祭では、齋田に決まった甲斐国（山梨県）、安房国（千葉県）の、それぞれの名所を詠み込んだ風俗歌が奏上されという。

安房国は①「岩間行く水のみとりも長狭川/いさよう瀬々の末深むらむ」（長狭川）。

②「名細しき蓬か島は君か代の/長狭県のかみや作りし」（蓬島）の二首。

「蓬島」は“よもぎしま”と読み、仁右衛門島のことらしい。

明治の儀式で使われた齋田は「主基齋田址」公園として整備され、地元住民らが守っています。1981年からは齋田で収穫された米で造った「白酒（しろき）」と新穂を明治神宮に奉納しているそうです。ことし5月には、平成から令和への代替わりを祝い「お田植え祭り」が行われました。

大山千枚田とその周辺

大山千枚田は鴨川市街から保田方面に走る長狭街道沿いの平塚地区にあります。山の急傾斜地に大小375枚の水田が階段状に連なって「います。東京から一番近い棚田として知られ、平成7年（1999）に「日本の棚田百選」に指定されました。平成14年（2002）に「全国棚田サミット」が開かれ、市内外からおよそ3000人が参加しました。棚田は地域の高齢化と耕作放棄地の急増で荒れていました。地元農家と都市住民の交流の場にしようと「棚田オーナー制度」を採り入れました。努力の末に、立派な観光名所になるような成果を挙げています。最近、観光客に楽しんでもらおうと、毎年秋に「棚田の夜祭り」が開かれています。今の時期は4色に色変わるLEDの光が織りなす「棚田のあかり」を楽しむことができます。点灯は来年の1月5日まで。問い合わせは鴨川市観光協会 ☎0470-（92）0086まで。

「千葉県酪農のさと」は南房総市大井にあり、「日本酪農発祥の地」として知られています。施設周辺の嶺岡一帯は、戦国時代に安房の盟主・里見氏が軍馬を生産するために牧場を起こしました。その後の江戸幕府も直轄領として管理。八代将軍徳川吉宗公の享保13年（1728）に、オランダからインド産といわれる白牛を輸入しました。嶺岡牧で飼育され、白牛の乳から「白牛酪」という乳製品を製造させました。強壯剤や解熱用の薬として使っていたという。吉宗公が乳製品を造らせたのが、日本の酪農の始まりとされています。

敷地内には千葉県嶺岡乳牛研究所や牛舎施設、「資料館」などがあり、「酪農」を見て・学べるようになっています。

酪農のさと近くに、登録有形文化財の「旧水田家住宅」があります。かやぶきの母屋、長屋門を構えた重厚な造りで、囲炉裏がある5部屋の豪農の家です（築120年以上）。鴨川出身で大蔵大臣など要職を務め、城西大学を創立した故水田三喜男氏の生家。水田家は「嶺岡牧」と、なんらかの関係があったようで、乳牛育成も手掛けていたという。旧水田家住宅は平成14年（2002）に文化庁の登録有形文化財に指定されました。鴨川市内では、ほかに

和泉公会堂、鈴木家住宅がなっています。

登録有形文化財制度は、平成8年(1996)の文化財保護法の一部改正で創設。保存及び活用についての措置が特に必要される文化財建造物・記念物を文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する制度です。国や地方公共団体の文化財に指定されていない。通常の文化財指定よりは規制が緩やかなのが特徴。登録物件は、近代(明治以降)に建造・製作されたものが主になっています。住宅改築などで貴重な“文化財”が取り壊される現状に歯止めをかけようというのがねらい。現在の登録有形文化財は、全国で約1万2100件。千葉県では、285件が指定されています。県内の例を挙げると、犬吠埼灯台(銚子市)、「腰越」のブランドで知られる吉野酒造店舗・主屋(勝浦市)、星野薬局店舗(長南町)などがあります。千葉ではありませんが東京タワー、大阪城天守閣もそうです。

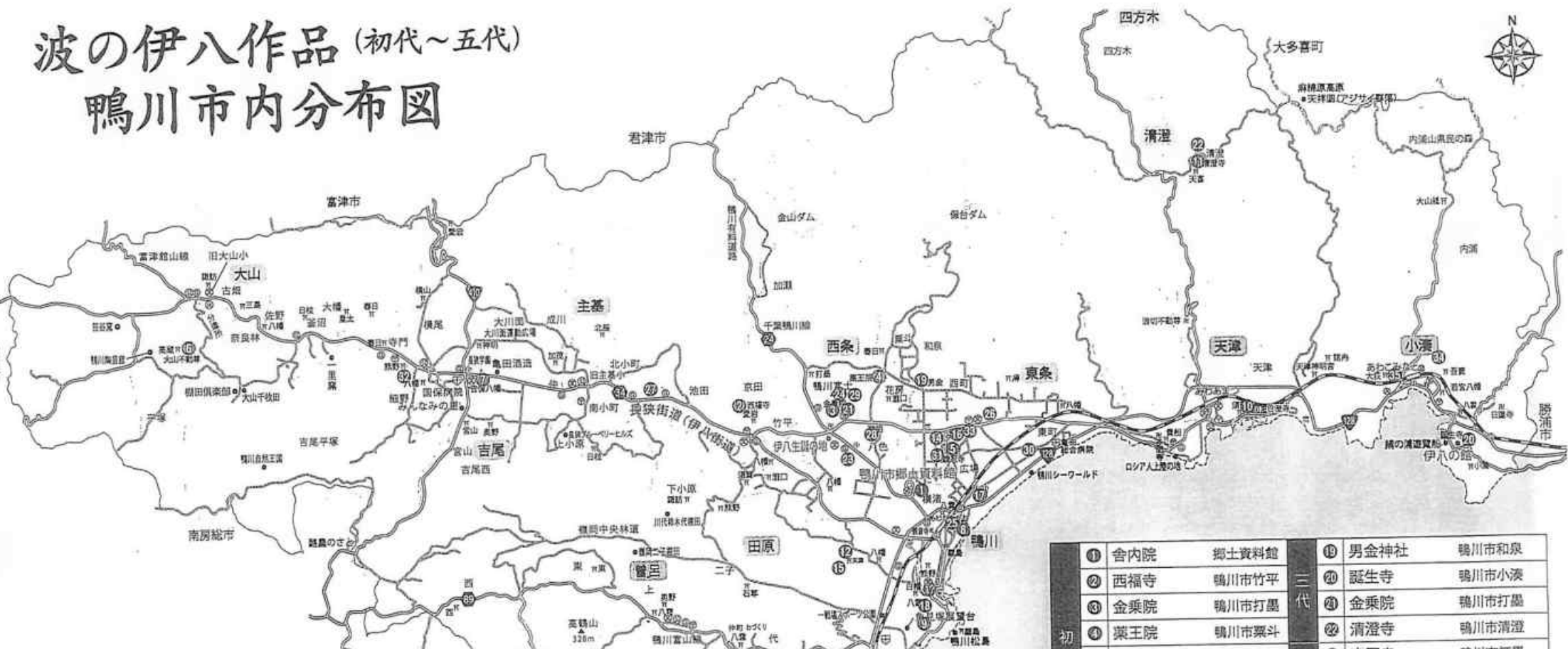
市原市では、古市場地区に「武田家住宅」があります。和洋折衷の住宅が特徴で医院として使われていました。小湊鉄道関係も多くあります。養老川第一橋梁、上総村上駅舎、海士有木駅舎、上総鶴舞駅舎など22件。市原市の場合は、合計で23件が登録有形文化財になっています。

大山不動尊(大山寺)は、大山千枚田近くの高蔵山中腹にある真言宗の寺院です。関東三大不動の一つに数えられ、地域の信仰を集めています。奈良時代に良弁僧正が開山したという。江戸時代末期に建てられた不動堂は、江戸中期の建築様式を忠実に造られ、県有形文化財に指定されています。向拝には「波の伊八」とうたわれた初代武志伊八郎信由の「龍」の彫刻が参拝者を迎えてくれます。

【おわりに】鴨川の魅力を古い記憶(記者時代)から掘り起こしてみると、改めて奥が深いと実感しました。講義のために、何度も鴨川に足を運びました。冬を彩る「棚田のあかり」に元気をもらいました。長々と書き連ね、レジメの紙数が増えてしまいました。受講者のみなさんに、あれもこれも伝えたいという気持ちからです。どうかお許しください。鴨川は「日本の棚田百選」、「日本の朝日百選」、「日本の渚百選」、「かおり風景百選」、「ちば眺望百景」と実に多い。それだけ魅力的な場所だということです。百聞は一見にしかず。まずは「おらほにきなよ！」

波の伊八作品 (初代~五代)

鴨川市内分布図



初代伊八の血を受け継ぎ作品を残した歴代の伊八たち

伊八の名前は、初代から五代までおよそ200年にわたって、昭和29年まで受け継がれた。

■ 初代 武志伊八郎信由

1752年(宝暦2年)生まれ。数多くの寺社に傑作を残す。1825年(文政7年)、73歳で歿。

■ 二代 武志伊八郎信常

本名 武石万右衛門
1786年(天明6年)生まれ。
父信由のもとで修行し、初代亡き後38歳で武志伊八郎を継ぎ、藻原寺や清澄寺などに作品を残している。1852年(嘉永5年)年、66歳で歿。

■ 三代 武志伊八郎信美(信徳)

本名 武石伊八郎
1816年(文化13年)生まれ。1889年(明治22年)、73歳で歿。
民家の欄間、置物などにも作品を残している。

■ 四代 武志伊八郎信明

本名 高石仙蔵
1862年(文久2年)生まれ。
東京柴又の帝釈天の作品に半生を注ぎこんだと云われ、制作中に病に倒れ、1908年(明治41年)、46歳で歿。

■ 五代 武志伊八郎信月

本名 高石武一郎
1890年(明治23年)生まれ。父とともに柴又、帝釈天での制作に従事。
1954年(昭和29)、歿。



資料・鴨川市内「波の伊八」作品ゆかりの寺社

初代	①	舎内院	郷土資料館	三代	⑩	男金神社	鴨川市和泉
	②	西福寺	鴨川市竹平		⑪	誕生寺	鴨川市小湊
	③	金乗院	鴨川市打墨		⑫	金乗院	鴨川市打墨
	④	薬王院	鴨川市栗斗		⑬	清澄寺	鴨川市清澄
	⑤	鏡忍寺	鴨川市広場		⑭	宝国寺	鴨川市打墨
二代	⑥	大山寺不動尊	鴨川市平塚	四代	⑮	金乗院	鴨川市打墨
	⑦	吉保八幡神社	鴨川市仲		⑯	神蔵寺	鴨川市横渚
	⑧	諏訪神社	鴨川市横渚		⑰	御嶽神社	鴨川市上人塚
	⑨	石見堂	鴨川市磯村		⑱	楞嚴寺	鴨川市池田
	⑩	善覚寺	鴨川市天津		⑲	神明神社	鴨川市八色
三代	⑪	清澄寺	鴨川市清澄	五代	⑳	金乗院	鴨川市打墨
	⑫	満光院	鴨川市来秀		㉑	永明寺	鴨川市西町
	⑬	神蔵寺	鴨川市横渚		㉒	鏡忍寺	鴨川市広場
	⑭	花蔵院	鴨川市和泉		㉓	天沢寺	鴨川市北風原
	⑮	天満宮	鴨川市来秀		㉔	八坂神社	鴨川市広場
	⑯	八坂神社	鴨川市広場		㉕	西蓮寺	鴨川市小湊
	⑰	須賀神社	鴨川市広場		㉖	大萩神社	鴨川市小湊
	⑱	八雲神社	鴨川市貝渚				

●寺院や神社は地域の信仰の場です。見学に際しては、その点を十分にご留意ください。
●寺院や神社、関係者の都合によって見学できない場合がありますので、予めご了承ください。
●私たちの貴重な財産である文化財を大切にしましょう。

